

# 共学・共育・共生の 力がみなぎる学校 地域の教育力を教育活動に 生かす

千葉県習志野市立秋津小学校

東京湾の埋め立て地に開校した習志野市立秋津小学校は、地域とともに育ってきた学校です。開校当初は児童数一、一〇〇人を超えるマンモス校でしたが、今では三三四人にまで減少しました。その子どもたちを、学校、家庭、地域が一体となって守り、育てていくという取組が営まれてきました。地域住民も学校を拠点とした活動をとおし、地域の力を活性化させていこうとしてきました。

平成一八年に習志野市より学校運営協議会制度の指定を受け、コミュニティ・スクールとして多岐にわたる取組を見直し整理して、学校と家庭・地域が連携、融合してともに学び、ともに育っていくという共学・共育・共生の気運を高めています。本稿では、特に地域の教育力を教育活動に生かすという視点から、学校支援ボランティアによる「学び」環境、「安全」環境、「情報」環境の五つの教育活動推進システムについて述べてみたいと思います。



みんなで作ったピートブロック

ピートブロック活動を行っています。そして、平成一一年に創立二〇周年を記念して、地域住民、学校職員、子どもたちが丸となった校庭に大規模なピートブロックをつくりました。

平成一四年には、文部科学省より「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」の指定を受け、保護者や地域住民が教育活動や学校運営に参画する地域運営学校（コミュニティ・スクール）のあり方についての研究を進めてきました。研究をとおし、新しいタイプの学校として目指す学校像を次のように描きました。

①保護者や地域住民が学校運営に参画する自主・自律・創造の精神に

②学校と地域の学びの共同体として、共学・共育・共生のまぎる力がみなぎる学校

③安全で安心なノーマライゼーションのコミュニティづくりを営む学校

### (3) 事業の内容

平成一七年には文部科学省より「コミュニティ・スクール推進事業」の委嘱を受け、地域学校運営協議会（学協）を準備機関として秋津小に適用したコミュニティ・スクールのあり方について探ってきました。

そして平成一八年に習志野市教育委員会より原下町の「学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）」の指定を受け、今日に至っています。

コミュニティ・スクールの指定を受けたことにより、学校運営協議会（学協）を立ち上げました。この会議では、主に①学校運営の基本方針の承認、②学校評価への参画、③入學についての意見具申などを行っています。

この学協の承認を得て、実際に教育活動を推進するために企画運営として組織が「パートナー会議」

### (1) 地域の概況

習志野秋津地区は、千葉県北西部、東京湾の最も奥まったところに位置し、西側には野島の重剛、谷津干潟と隣接している地域です。この地域は、第二次世界大戦の工事により宅地造成が行われ、昭和五五年に団地の入居が開始された埋め立て地でもたまたま新興住宅地です。現在二、六五〇世帯（人口七、六〇〇人）の地域です。

秋津団地の入居が開始されると同時に、この秋津小も開校しました。すなわち、「地域とともに生まれ育ってきた学校」と言っても過言ではありません。

入居が始まった当初は、世帯数も急激に増えている、昭和五六年には、児童数一、一〇〇人を超えるマンモス校になりました。しかし、現在、秋津地区にも中高齢化の波が押し寄せ、昭和五八年をピークに、年々世帯数も減少し、現在では児童数三三四人と、市では二番目の小規模学校になりました。

児童数が減少したあとにできた余剰教室では、会議を開いたり、伝統芸能や音楽、工芸などのサートレ活動

です。この組織では、主に①教育活動推進システムの実質的な活性化、②教育活動・学校評価への参画、③生涯学習および安心安全なコミュニティづくりの推進、④校長の意向を尊重した学校運営の支援を行っています。

①でいう「教育活動推進システム」とは、学社協を核とする教育活動の開発・推進を図るために構築されたシステムで、「学び」環境、「安全」環境、「情報」環境の五つの支援システムで構成されています。この五つの支援システムに毎週実施している教育活動に携わっていく人々を、「学校支援ボランティア」と呼んでいます。これより五つの支援システムについてご紹介します。

#### 「学び支援システム」

「学び支援システム」は、授業や学校行事に参画し支援を行っています。子どもと直接的にかかわることのできる支援活動です。子どもたちが、身近な地域の人や、子どもたちが夢・希望・感動を生み出してくれる人々と直接かかわる人間が大好きになるような活動を、本校では一人聞だすふれあい活動」と呼んでいます。この活動は、主に、生活科や総合的な学習の時間において多く実践されてきました。

動を行ったりしています。

地域住民が、常日頃より気軽に学校に出入りするようになると、住民同士の間に親が生まれる仲間意識が培われていきます。また、学校の教職員とも顔面を持ち、円滑な関係が築かれていきます。そして、子どもたちを育てるのは家庭だけでなく、学校と地域が一線にならなくていい、という意識が高まります。そこで、本校では

「少子化時代の大家族 学校と地域で育てる秋津っ子」というスローガンを掲げています。

### (2) 事業の経緯・目的

本校は、平成二二年に習志野市教育委員会より「生涯学習研究推進校」に指定され、開かれた学校づくりの指針に着手して参りました。以後、秋津地区生涯学習推進協議会（地学連）を設立させ、子どもたちのクラブ活動に参加したり、飼育小屋や「ふれあい公園」を自らの手で築き上げたりました。この地学連が、「秋津コミュニティ」と改称し、余剰教室を秋津コミュニティルームとして開設して前浜のような中

これまでの各学年の主な活動を紹介します。

（一）年生 地域のサークルの方などに、おもちゃ作りや、和太鼓、人形劇、パネルシアターなどを教えてもらい、地域の施設や保護者に発表する。

（二）年生 地域の高齢者に自分たちが育てたスズシを渡ったり、交流、給食会を開いたり、高齢者から昔の遊びを教わってもらったりする。

（三）年生 「秋津は芸術愛好会」の方に「はかばか」を教わってもらい、秋津祭りで一掃に参ったり、地域の施設で踊りを見てもらったりする。



地域の高齢者と給食を食べる2年生

（四年生）併設幼稚園の園児たちと一緒に給食を食べたり、遊んだりする。



地域の合陽サークルと融合授業をする5年生



環境ボランティアとグリーン運動を行う3・4年生

は、必ず当該年度の教職員と子供ボランティアの間で事前打ち合わせを行い、事後にはお互いに反省や感想を話し合うようにしています。そして、気軽に支援活動に参加できるようにというように、「できる人」が、できる時に、無理なく、「楽しく」をモットーとしています。

### (5) 成果と課題

○学校支援ボランティアのネットワーク化を図ったり、教職員との打ち合わせを深めたりすることにより、支援活動が円滑に行えるようになりまし。

○「人間たいすきふれあい活動」を充実させることにより、子どもたちの間に、相手に共感し、自然にもに尊重する意識が育つてきています。

### 【課題】

○地域住民にも保護者にもアンケートによる学校評価を行ってききましたが、次年度の改善に向けてより有効な評価の仕方について吟味していく必要があります。

○「人間たいすきふれあい活動」を

トップで履を育て、収穫して豊作を味わう。

（六年生）地域にある福祉施設を訪ねてボランティア活動を行ったり、高齢者とふれあったりする。（全学年）地域の方と一緒に英語活動を行う。

それ以外の教科領域においても「人間たいすきふれあい活動」がみられます。例えば、国語ではお話サークルによる読み聞かせや、英語同好会による英語の発表、音楽では地域のサークルによる合唱や楽器演奏の融合授業、家庭科では環境実習やメシを使った学習の指導支援、クラブ活動での共同参加などが挙げられます。

### 【環境支援システム】

本校では、月に一回、環境ボランティアの方が教職員と一緒に、花壇の草取りや花苗植えなど緑化整備を進めています。（グリーン運動）。また、月二回、子どもたちと一緒に学校の園地のこみ拾いを行っています。（グリーン運動）。さらには、ピオニアの維持管理や菜園園の整備等も行っていきます。

### 【安全支援システム】

毎朝、安全ボランティアの方々が交代で学区の五ヶ所に立って子どもたちの登校を見守っています。登校

とおして見ると、子どもたちはどうしてかおびボランティアの方に頼りがちになってしまっている、自ら課題を見つけて解決する力を強化する必要があります。

### (6) 評価

本校では、学校評価を次のように行っています。

- ①子どもによる自己評価
- ②教師による自己評価
- ③保護者によるアンケート評価
- ④保護者による授業参観後の評価
- ⑤地域住民（学校支援ボランティアを含む）によるアンケート評価

それらの評価を総括すると次のようになります。

○学校融合の教育活動を推進している結果、九割五の子どもが「学校が楽しい」と答えています。しかし、残り一割の子どもの思いも大切にし、少しでも「楽しい」と感じられるよう努めています。

○日常の会話においては、積極的に話す子どもが多いのですが、学習中になると、自分の言葉でわかりやすく表現する子どもが限られてしまう傾向にあります。

○保護者や地域住民には、本校がコ



消防官校指導を行う安全ボランティア

指導だけではなく、「おはよう」と子どもたちに声をかけてあひさつ運動も使っています。

また、月に二回消防隊の安全パトロールを行ったり、全校生徒避難や、各学年の校外学習の引率を支援したりしています。

### 【遊び支援システム】

特に、放課後の子どもたちの居場所づくりを中心として行われています。クラブ活動が始まる前には、低学年の子どもたちを相手に地域のボランティアの方が持参して遊んだり、コミニティールームを活用してお絵かき教室、英語教室、算数教室を開催したりしています。

### 【情報支援システム】

コミニティ・スクールの指定を受けたことを加えている人が多々ありますが、学校運営協議会やパトナリー会議など活動しています。知らない人が多いです。具体的な情報発信をしています。

### (7) 今後の継続的な取組の予定

今後の取組として、五つの教育活動推進システム（学び・環境・安全・進歩・健康）の充実を図っていきます。特に、学校支援ボランティアの募集をPTAの組織からも保護者に呼びかけてもらい、保護者ができるだけ多く支援活動に参加できるようにしていきます。

また、学校融合授業においても、各学年に教材開発を促し、新しい教科領域、各学年での取組を推進していきます。

### (4) 関係団体との連携・協力

学校運営協議会やパトナリー会議の内容を伝えたり、地域住民と子どもたちとの融合授業の様子を紹介したりする「関係のかせ」を発行しています。また、学校の職員ではなかなか手が回らない小ムベージの更新を支援したり、パソコンを活用した授業では指導がなるべく個人に行えるように指導支援をしたりしています。

これらの活動を充実させるためにはボランティアを広く募集しなければなりません。そこで、応募用紙を保護者だけでなく、秋津地区の全世帯（二、六五〇世帯）に配布しています。今年度までの応募者は二五五人でした。この方々を五つの支援システムに分け、パトナリー会議のメンバーがそれぞれの中心になって、ネットワーク化を図り、各ボランティアがいつでも支援できるように体制を整えています。

また、支援活動が円滑に行えるようにするために、教職員と学校支援ボランティアとの間で密着打ち合わせを行っています。例えば「人間たいすきふれあい活動」を行う時に

### (8) 地域データ

学校名	習志野市立秋津小学校
設立年月日	昭和55年4月1日
児童生徒数	334人
教職員数	26人

### 問い合わせ先 navi

習志野市立秋津小学校  
 所 在: 平山 宮崎  
 Tel : 047-451-8111  
 Fax : 047-451-8112  
 E-mail : akitsu@nkc.city.narashino.chiba.jp  
 URL : http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp/akitsu/